



M1

ユーザーマニュアル



! ご使用前に必ず本マニュアルをお読みください。

マニュアルの内容を理解せずにご乗車しないでください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

はじめに

この度は、電動モータサイクルM巻をご購入いただき、誠にありがとうございます。安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

車両をお乗りになる前に、まずは本マニュアルをご熟読ください。本マニュアルには、オートバイの操作方法、トラブルシューティングやメンテナンスに加え、車両を痛めたり、お乗りのお客様自身や周囲の方を傷つけたりすることが無いよう、その手引きが示されています。また、お読みになられた後も、このマニュアルを安全な所に保管してください。もし、中古等でこの車両をお売りになる際には、このマニュアルを新しいオーナー様にお譲りいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

このマニュアルには、作成時点での最新情報が掲載されています。しかしながら、製品の継続的な改善のため、ユーザーマニュアルと実際の車両との間に多少の相違点が生じる場合があります。実際の車両がマニュアルに優先されることをご了承ください。

フェローテクノロジー社 (FELO Technology(Shanghai) Co., Ltd.) では、本マニュアルについて、予告なく変更する場合があります。もし、このマニュアルについて質問がある場合は、お買い求めの正規販売店にお尋ねください。





車両の不正改造等は禁じられています。

はじめに	ii	盗難防止アラーム	22
重要な情報	3	操作ガイド	23
概要	3	乗車前の準備	23
車両情報	4	バッテリーの取り付け	24
FELO MOTO 専用アプリについて	5	車体の折りたたみ方法	26
安全に乗るために	6	始動方法	30
安全に乗るための手引き	6	ライディング	33
各部の名称と操作	10	ブレーキ	34
主要部品	10	駐車	35
主要電装部品	12	バッテリーの充電	36
メーター	13	メンテナンス	42
指示灯	14	メンテナンスの重要性	42
スイッチ	15	点検スケジュール	43
キー	18	部品の交換	45
外部出力ポート	19	トラブルシューティング	52
機能	20	車両が走行できない	52
スマートカードキーシステム	20	バッテリーが充電できない	52

スマートカードキーが反応しない	53
タイヤのパンク	53
灯火類の故障	54
その他の情報	55
車両のお手入れ	55
車両の保管	57
車両の輸送	58
環境の保護	58
スペック	59
主要諸元	59
バッテリー	60
コントローラー	60
電装部品	60
ヒューズ	60
電気回路図	61
索引	62

概要

このユーザーマニュアルでは、特に重要な情報について、下記のシンボルマークで説明しています。

- | | |
|---|---------------------------------|
|  危険 | 指示に従わないと、死亡または重大な障害に至るもの |
|  警告 | 指示に従わないと、死亡または重大な障害に至る可能性があるもの |
|  注目 | 指示に従わないと、障害を受ける可能性があるもの |
|  注意 | 車両やその他の所有物に損害を与えないためにも、特に注意するもの |

運転者や他の方が障害を受ける可能性を回避するため、車両を安全に正しく取り扱うことは、オーナーとしての義務でもあります。

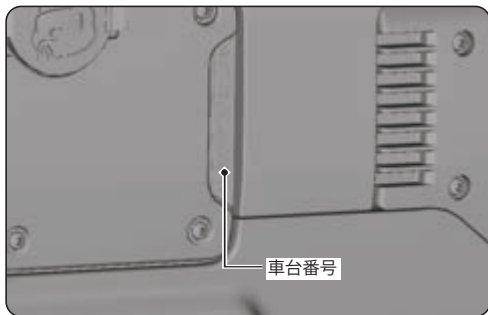
安全性について正しい判断ができるよう、このユーザーマニュアルには上記シンボルマークやその他の情報が記載されています。

これらの情報は、あなたや他の方に、害を及ぼす可能性のある潜在的な危険について警告することを目的としています。

車両を安全に運転し、正しくメンテナンスするために、必ず指示に従ってください。

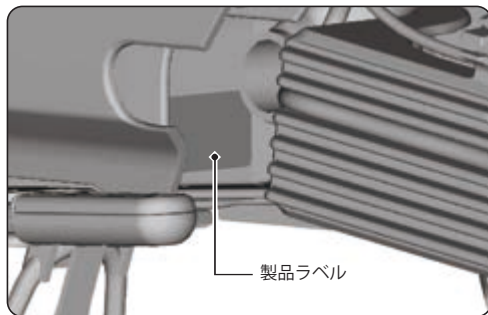
車両情報

車台番号と製品ラベルは、それぞれの車両に固有のものであり、車体を特定するのに必要な情報です。車両の登録に関する手続きや部品を注文するときに必要です。下図に示された箇所に打刻または貼付されていますので、車両購入時に必ずご確認ください。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車両と別に保管することを推奨します。



車台番号

車台番号は右フレームに打刻されています。。



製品ラベル

製品ラベルはフロント下部に貼付されています。
車両製造に関する情報が示されています。

FELO MOTO専用アプリについて

専用アプリをお手持ちのスマートフォンにダウンロードすることで、車両と接続し情報を管理することが出来ます。

※ 2024年6月現在、まだアプリは日本国内での配布に対応していません。



安全に乗るために

安全に乗るための手引き

オーナーの責任

車両の所有者として、車両を安全に正しく操作することはご自身の責任です。ご購入になる前に、必ず下記について理解してください。

- 運転者は安全かつ正しい運転技術を身につけ、適切な免許が必要です。
- 本マニュアルに記載される注意や警告、点検項目などに従うこと。
- 運転する際は、必ず交通安全法規を遵守してください。
- 車両を絶対に改造しないでください。
- 部品交換が必要な場合は販売店に相談してください。
- 車両から異音が出た場合は、直ちに使用を中止し、販売店に相談してください。
- 車両を、重量物の運搬に使用しないでください。

運転時の環境条件

乗車前に体調が万全であること、集中力を欠くことがないこと、アルコールや薬物の影響下でないことを確認してください。

- 大雨や強風などの悪天候時の運転は避けてください。
- 道路環境が悪条件の場所では、慎重に運転してください。障害物、悪路、滑りやすい路面、急な坂道や急カーブなどでは、制御を失いやすく。転倒や衝突に繋がる恐れがあります。
- 濡れた状態では路面が滑りやすくなり、ブレーキ性能が低下しますので、慎重にゆっくり運転してください。
- 疲労状態での運転は避けてください。適切な判断や安全運転を損なう原因となります。

乗車時の服装

乗車時は必ずヘルメットを着用し、視界を妨げないフェイスシールドやゴーグル等で眼を保護し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く視認性の高い服装を着用してください。

ヘルメット

二輪車用でPSC、SGマーク、JISマークのあるものを推奨します。
正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。

グローブ

摩擦に強い5本指のものを着用してください。

ブーツ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたものを着用してください。

服装

安全性が高く、体の露出が少ない長袖・長ズボンを着用してください。

乗車前の点検

乗車前に車両に異常がないか点検し、修理が必要な場合は販売店に相談してください。

- 電源、スイッチ類、灯火類が正常に作動する。
- 前後ブレーキが正常に動作する。
- ハンドルバーが固定されている。
- タイヤの空気圧が正常である。
- リフレクターが割れたり、汚れたりしていない。

安全運転のために

運転者は交通法規を遵守し、安全運転に注意してください。

- 雨や雪の日は制動距離が長くなりますので、大雨などの悪天候時は速度を落として徐行運転を心がけてください。
- 運転者はヘルメットおよびその他の保護具を着用する必要があります。
- 運転中は必ず両手でハンドルを握り、両足をステップに乗せてください。

安全のための注意事項

安全のため、次の項目に注意してください。

- 車両を、建物の玄関、避難階段、歩道などに駐車しないでください。
- バッテリーを充電する際は、可燃物から離れた場所で行ってください。
- バッテリーを廃棄する際は、専門のリサイクル業者に依頼するか、販売店に相談してください。
- 充電器は、必ず車種専用の純正品を使用してください。

予期せぬ事故への対処

- 安全確保が最優先です。ご自身、もしくはどなたかが怪我をされた場合、その状況を慎重に見極め、安全な運転の継続が可能か判断してください。
- 必要に応じて緊急車両等、要請してください。事故に他者や他の車両が関係している場合、交通法規に従って対応してください。
- 運転を継続される場合、電源スイッチをOFFの位置にして車両の状態を点検してください。
- バッテリーの損傷、ネジやボルトみの緩みを確認、ハンドル、ブレーキやホイールを点検してから、ゆっくり慎重に運転してください。
- その場でわからなくても損傷を受けている可能性がありますので、必ず販売店等で早急に点検を受けてください。

転倒や事故後は以下に注意してください：

- 激しい転倒により、車両が損傷を受けると、感電によるショックを受ける可能性があります。電気部品（12ページを参照）や接続配線に触れないでください。
- バッテリー電解液に触れないでください。事故の衝撃によってバッテリー電解液が漏れる可能性があります。電解液が皮膚や眼に付くと、侵されたりヤケドを負いますので、電解液に触れないようにしてください。
- 火災が発生した場合は、適切な消火器を用いて消火してください。

⚠ 警告

この車両は 48V リチウムイオンバッテリーを使用しているため、事故が起きた時に誤った対応をすればと思われる事故を再発する原因となり、死亡または重大な障害に至る可能性があります。事故が起きたときは本マニュアルに記載された方法・要領に従ってください。

バッテリー

バッテリーから異音がする場合、故障の可能性があります。直ちに車両を屋外の安全な場所に駐車し、電源スイッチをOFFにして、お買い求めの販売店にお問い合わせください。（バッテリーの充電方法は34ページ参照）バッテリーをご自身で分解・改造をしないでください。

ブレーキ

以下のガイドラインに従ってください：

- 過度な急ブレーキは避けてください。
急ブレーキは車体の安定性を低下させる可能性があり、タイヤが滑ったり転倒する危険があります。
- 雨や雪、油汚れなどで滑りやすい路面では、制動距離が長くなるため、注意してください。

- 長く急な下り坂でブレーキを繰り返すと、ブレーキが加熱し制動力に影響を与える可能性があるため、注意してください。
- 制動力を高めるため、前後ブレーキを同時に使ってください。
- 長期間走行すると、ブレーキから異音が発生する場合があります。

アクセサリと改造

- アクセサリの装着や改造は、安全上の危険が生じる恐れがあります。
- 車両を改造すると保証対象外となり、公道走行が違法となる場合があります。
- アクセサリーを装着する場合は、販売店に相談してください。

警告

不適切なアクセサリや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な障害に至る可能性があります。アクセサリを装着する際は、販売店にご相談のうえ、本マニュアルに従ってください。

積載について

- 過積載はハンドリング、ブレーキ、安定性など車両操作性に影響を与えます。規定の最大積載量を守ってください。

最大積載量：100 kg

- 重量物を運ぶときは安全な速度で走行してください。。
- 積載物はしっかりと固定してください。走行中に荷物が左右に動かないことを確認し、必要に応じて調整してください。
- 灯火類やモーター周辺に荷物を置かないでください。

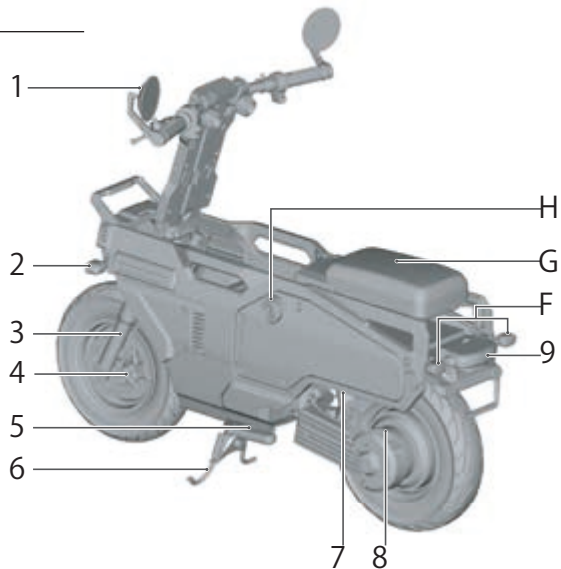
警告

過積載や不適切な積載、また多人数での乗車は、事故の原因となり、死亡または重大な障害に至る可能性があります。積載方法については、本マニュアルの手順に従ってください。

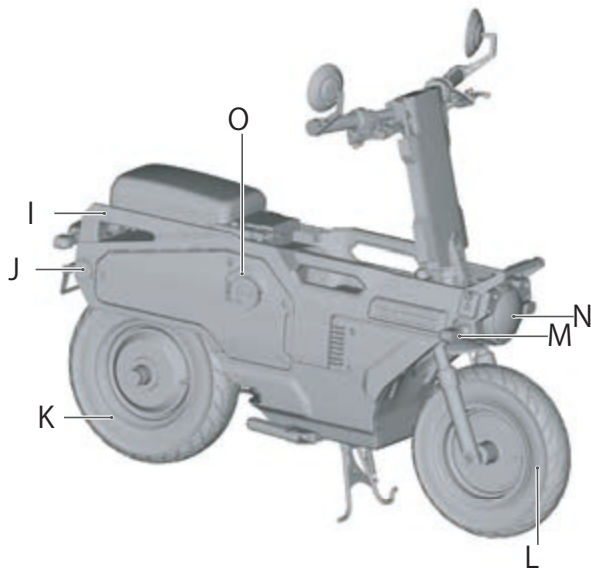
各部の名称と操作

主要部品

- 1 バックミラー
- 2 フロントウインカー
- 3 フロントフォーク
- 4 フロントブレーキキャリパー
- 5 フットレスト
- 6 メインスタンド
- 7 リアショックアブソーバー
- 8 リアドラムブレーキ
- 9 テールライト
- F リアウインカー
- G シートクッション
- H イグニッションスイッチ

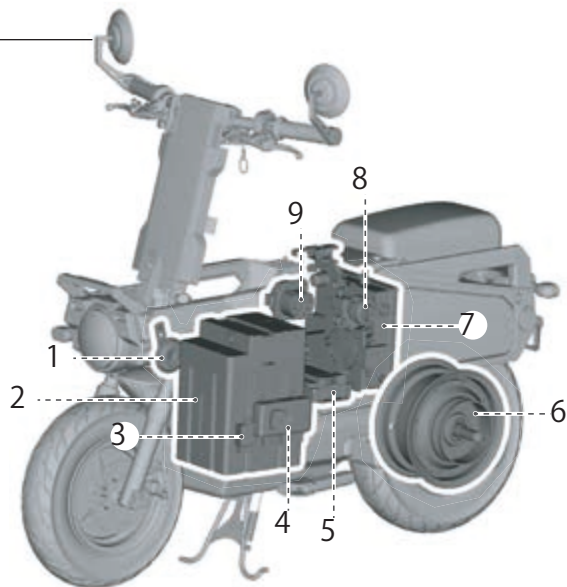


- I リアアームレスト
- J リフレクター
- K リアホイール
- L フロントホイール
- M フロントウィンカー
- N ヘッドライト
- O 出力ポートカバー



主要電気部品

- 1 ホーン
- 2 パワーバッテリー
- 3 DCコンバーター
- 4 VCU (車両コントローラー)
- 5 MCU (モーターコントローラー)
- 6 ホイールハブモーター
- 7 内蔵充電器
- 8 ブレーカースイッチ
- 9 外部出力ポート





メーター

表示機能の点検

電源スイッチをONの位置にすると、すべてのパターンと数値が表示されます。各表示灯は、対応する使用条件下で正常に点灯します。
上記表示部が点灯しない場合は、販売店にご相談ください



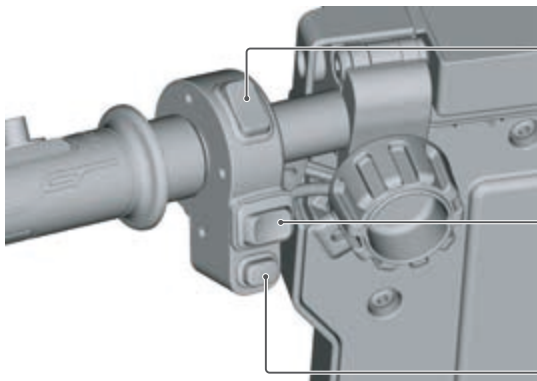
表示灯（インジケーター）

表示機能の点検

電源スイッチをONの位置にすると、すべてのパターンと数値が表示されます。各表示灯は、対応する使用条件下で正常に点灯します。
上記表示部が点灯しない場合は、販売店にご相談ください

スイッチ

左ハンドルスイッチボックス



1 ヘッドライト上下切り替えスイッチ

- ☰☉ ハイビーム
- ☷☉ ロービーム

2 ウィンカー（方向指示器）スイッチ

- ☞ 左折方向指示灯が点滅
- ☜ 右折方向指示灯が点滅
- スイッチを戻して点滅終了

3 ホーンボタン

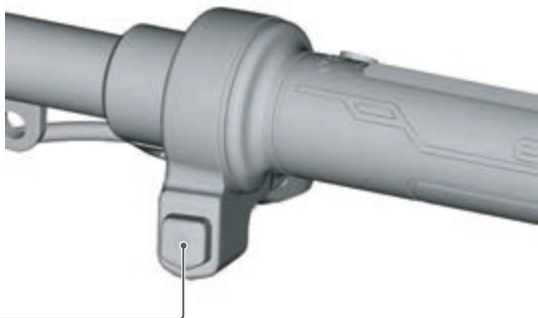
警報機を鳴らすときに押します。

スイッチ（続き）

右ハンドルスイッチボックス

4 スタートスイッチ

駐車状態からメインスタンドを格納し、このスイッチを押すとパーキングモードが解除され、メーターのREADY表示灯が点灯します。
走行後、再びスイッチを押すとパーキングモードが作動し、メーターP表示灯が点灯します。



イグニッションスイッチ



1 OFF

システムの電源をシャットダウンします。

2 ON

電源システムを起動し、始動の準備をします。

ⓘ 注意

運転しない時にイグニッションスイッチをONのままにするとバッテリーが消耗します。

走行中はイグニッションスイッチを切らないでください。

キー

車両には、スマートカードキー1枚とメカニカルキー2本が付属します。キーを紛失した場合は、販売店にご相談ください。

注意

車両使用時はキーを持ち歩き、使用後は適切な場所に保管し、紛失しないようにしてください。

スマートカードキーの使い方

カードキーを、パワースイッチ下の読み取りエリア((NFC)) にタッチして離すとスイッチが点灯、パワースイッチのノブを回しロック解除します。



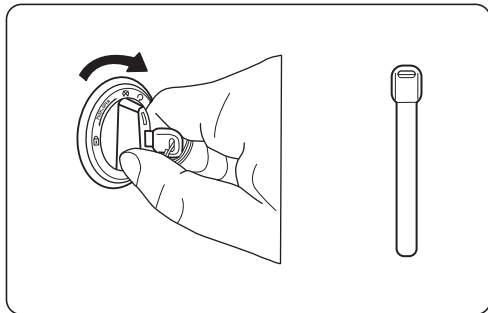
キー前面



キー背面

メカニカルキーの使い方

メカニカルキーを、パワースイッチのノブ中央をスライドさせ、鍵穴に差し込んでノブを回してください。



注意

バイクの電源が入っているときにメカニカルキーを抜く場合は、必ずゆっくりと回して抜いてください。キーを無理に抜かないでください。ロック機構が破損する恐れがあります。バイクのロックが破損した場合は、最寄りの正規販売店またはアフター技術担当者に修理をご依頼ください。

外部出力ポート

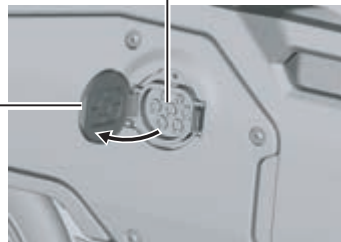
バッテリー外部出力ポート

車体右側シート下のポートカバーを開いて使用してください。

(バッテリー使用上の注意は、37ページ参照)

(バッテリー充電方法については、38ページ参照)

外部出力ポートカバー



スマートカードキーシステム

スマートカードキーの技術仕様

周波数：13.56 MHz

動作電圧：9~100 V

静止電流：1mA@12 V

保管温度範囲：-30~75 °C

使用温度範囲：-20~65 °C

防水レベル：IP67

通信方法：CAN通信（ボーレート：250Kbps）

通信距離：30mm以内

VCU（車両コントローラー）技術仕様

周波数範囲：700-2690 MHz

用途：車両制御

使用温度範囲：-20°C-60°C

定格電圧：12 V

アンテナの種類：4G、BT、GPS

アンテナの利得：1.37 dbi

基本情報

スマートカードキーシステムは、メカニカルキーを挿入しなくても
パワースイッチの操作が可能です。

カードキーが車体に、認識／登録されているかを双方向通信で認証
します。

無線通信システムは、低強度の電波を使用します。医療機器（ペー
スメーカー等）に影響を与える可能性があります。

注意

乗車時はスマートカードキーを常に携帯してください。
カードキーは紛失しないように適切に保管してください。

動作範囲

カードキーの動作範囲は、読み取りエリアから30mm以内です。

以下の環境では、通信システムが正常に動作しない場合があります。

- 近くに強い電波やノイズを発生する施設（テレビ塔、発電所、放送局、
空港など）がある場合。
- カードキーをノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線機器と一
緒に持ち運ぶ場合。
- スマートキーが金属に触れていたり、覆われている場合。

スマートカードキー取り扱い注意事項：

- 無理に曲げたり、握ったり、重いものを乗せたりしないでください。
- 直射日光、高温多湿を避け、正しく保管してください。
- 傷つけたり、穴を開けたりしないでください。
- 磁気を帯びた製品の近くに保管しないでください。
- 電気製品（テレビ、ラジオ、パソコン、低周波マッサージ器など）に近
づけないでください。
- 濡らさないでください。濡れた場合は柔らかい布で乾拭きしてください。
- 洗車する際は、車体からカードを遠ざけてください。
- 燃やさないでください。
- 超音波洗浄機などで洗わないでください。
- 燃料、ワックス、グリスなどが付着した場合は、すぐに拭き取ってくだ
さい。

- カードを分解しないでください。
- カードを紛失しないでください。紛失した場合は、新たにカードを登録する必要がありますので、販売店までご連絡ください。
- 許可なく、使用条件を変更したり、送信周波数範囲を拡大したり、送信電力を増加したり（RF パワーアンプの追加を含む）、送信アンテナを変更したりすることはできません。
- 他の合法的な無線局から電波発信を妨害してはなりません。また、仮に非合法的な無線局からの電波の発信があったとしても、一方的に妨害することは不正行為になります。
- 産業・科学・医療機器、またはその他の合法的な無線局などが発生させる電波や電磁波の影響を受ける可能性があります。
- 他の電波や無線発生源からの影響によって誤作動が生じる可能性がある場合は、メカニカルキーを使用してください。
- 電波の使用が規制される環境（電波天文台やレーダー局の周辺、衛星地球局、計測・制御・測距・受信・航法局、空港、自衛隊や米軍基地の周辺、航空機無線、電磁環境保護地域など）でのカードキー使用は、それぞれの地域、国の法律や規制に従って行う必要があります。十分に注意してください。
- 空港滑走路の中心から半径5,000m以内の場所では、スマートキーのようなりモコン機器の使用は禁じられています。

盗難防止アラーム

基本情報

盗難防止アラームは、盗難リスクを軽減します。電源スイッチが OFF の位置にあり、システムが設定されている場合、センサーが車体の振動や動きを検知すると、アラームが作動します。盗難防止アラームは、低周波の電波を使用するため、ペースメーカーなど医療機器に影響を与える可能性があります。

注意

バッテリー残量が少ない場合、盗難防止アラームが作動しないことがあります。

盗難防止アラームが正常に作動しない

以下のような状況が発生した場合は、バッテリーの消耗、もしくはシステム障害の可能性があります。販売店にご相談ください。

- アラームが鳴らない。
- アラームは鳴るが、徐々に鳴り止んでしまう。
- アラームが鳴り続けて止まらない。

乗車前の準備

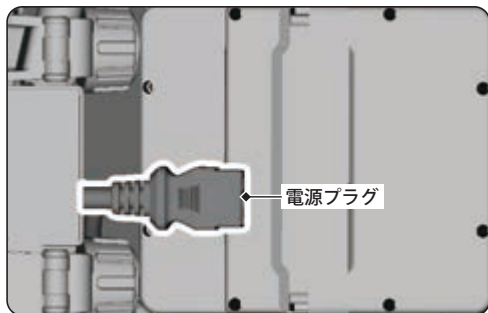
安全快適にご使用いただくために、乗車前に必ず下記項目の点検を行ってください。
また、本マニュアルに記載された点検スケジュールを遵守してください。

点検項目	点検内容	参照頁
バッテリー容量	バッテリー残量を確認し、必要に応じて充電する。	13ページ
ハンドル	ハンドル可動域すべての位置で、スムーズに動作することを確認する。	-
スロットル	スロットルの遊びを確認、調整する。	51ページ
ブレーキレバー	ブレーキがスムーズに作動するか確認する。	34ページ
前後ブレーキ	ブレーキパッドの磨耗を点検する。	50ページ
メーター・灯火類・スイッチ	メーター・灯火類・スイッチが正常に動作していることを確認する。	13-17ページ
ホイール・タイヤ	損傷がないかを点検する。	-
	タイヤの状態と空気圧を点検し、必要に応じて調整する。	46-48ページ

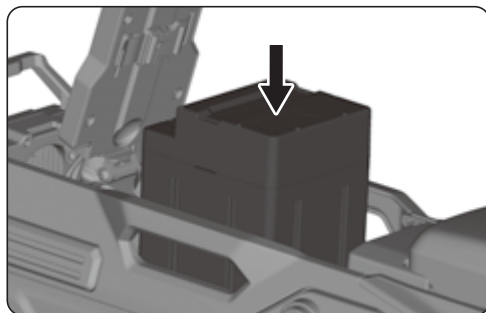
バッテリーの取り付け

バッテリーの取り付け方：

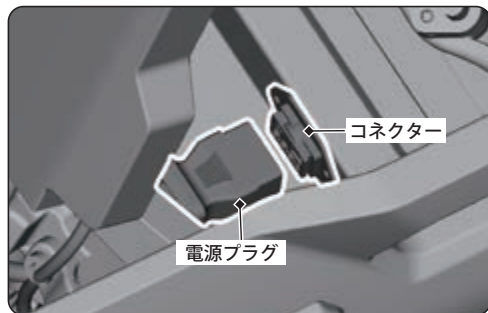
- 1 バッテリー収納部に異物がなく、電源プラグが接続されていることを確認してください。



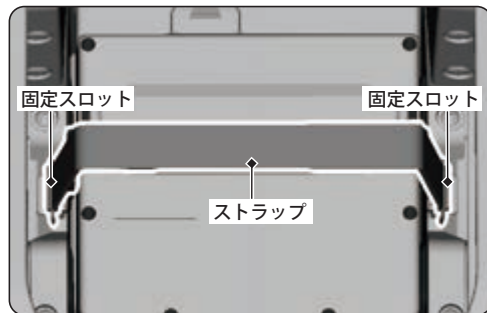
- 2 バッテリーを収納部に入れ、走行中に動かない位置にあることを確認してください。



3 電源プラグをバッテリーのコネクターに接続します。



4 付属のストラップでバッテリーを固定してください。



注意

バッテリーは所定位置に置くとき動きにくくなります。異常がある場合は、販売店に相談してください。

バッテリーの取り扱い：

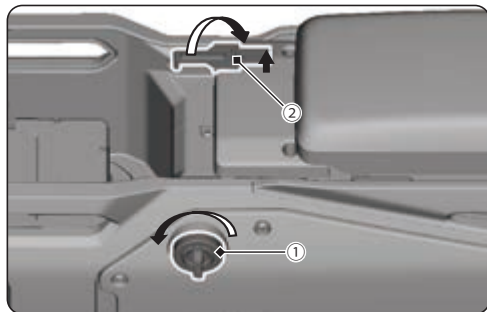
- バッテリーは車両に搭載された物のみ使用し、他のメーカーや他モデルのバッテリーを使用しないでください。
- バッテリーの外観に損傷、液漏れ、発熱、水濡れ、異臭などしないかを「確認してください」。
- 低温下では、使用可能なバッテリー容量が低下します。
- 充電器は付属の純正品を使用してください。他モデルや他メーカーの充電器を使用しないでください。
- バッテリー寿命への影響や安全面から、12時間以上充電をしないでください。

バッテリー使用上の注意：

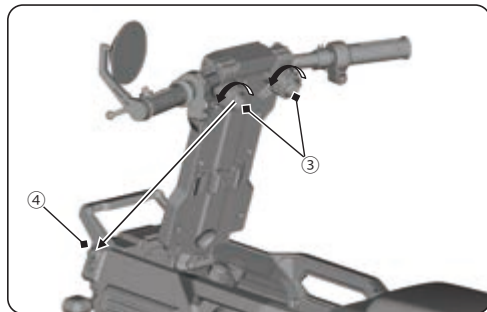
- バッテリーに異常がある場合は、販売店に連絡してください。
- バッテリー寿命を延ばすため、完全放電は避けてください。
- バッテリーを分解しないでください。感電、ショート、火災、爆発などの恐れがあります。
- 充電器のランプが緑になると満充電です。
- バッテリー保管に適した周辺温度は0～35℃です。
- 車両を長期間使用しない場合は、バッテリーを取り外し、満充電した状態で換気の良い場所で保管し、充電器を使用して月に一度充電してください。
- バッテリーや車体に水をかけたり、大雨での走行はしないでください。

車体の折りたたみ方法

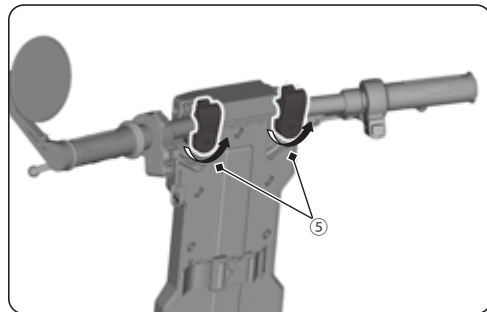
- 1 メカニカルキーもしくはスマートカードキーで、ロックを解除した後、イグニッションスイッチ①を左に回します。「カチッ」という音が聞こえたら、シートクッション前方のフックレバー②を外します。



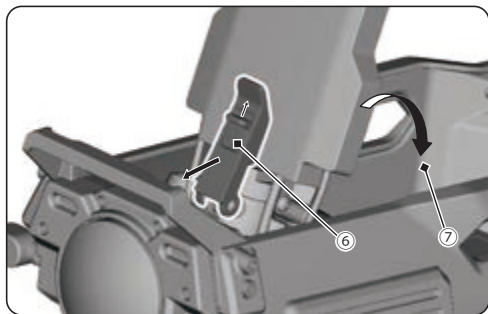
2 グリップボルト③を外し、シャーシ前方の左右ネジ穴④にセットします。



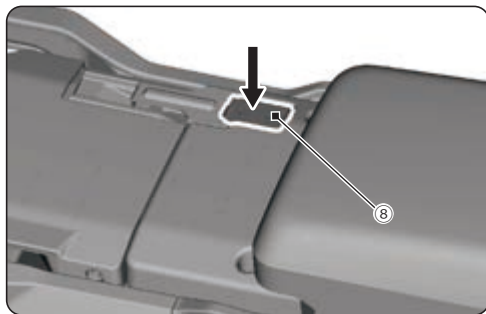
3 左右のクランプ⑤を開き、ハンドルバーの固定を外します。



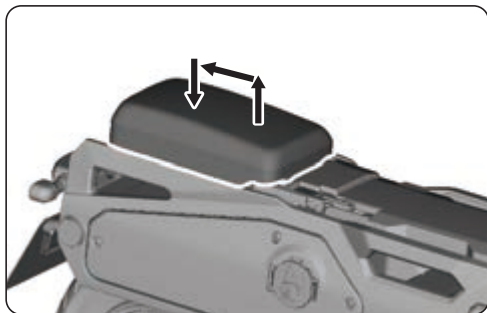
4 ハンドルポスト可動部のスプリングレンチ⑥のロックを外し、バッテリー収納部方向⑦へ倒します。



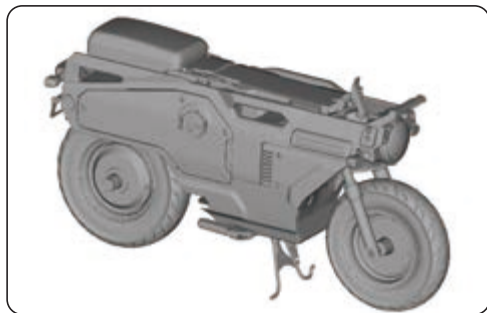
5 ハンドルポストを折りたたんだ後、フックラッチ⑧を「カチッ」とするまで押し込みます。



6 シートクッションを上を持ち上げ、後方に限界まで押して、下に押し込むと、シートが折りたためます。

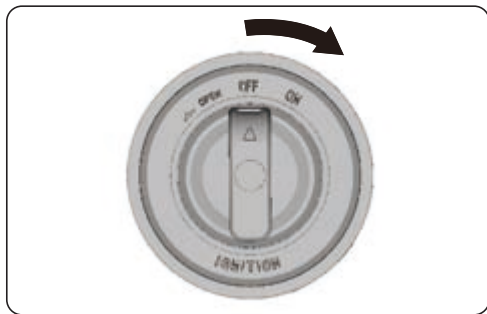


7 下図が折りたたんだ状態です。



始動方法

運転する際は、メカニカルキーもしくはスマートカードキーを携帯してください。(18ページ参照)



- 1 ブレーカースイッチがONになっているか確認してください。
- 2 電子ロックを解除してください。(31ページ参照)

注意

転倒した場合は、イグニッションスイッチをOFFにしてから車両を点検してください。

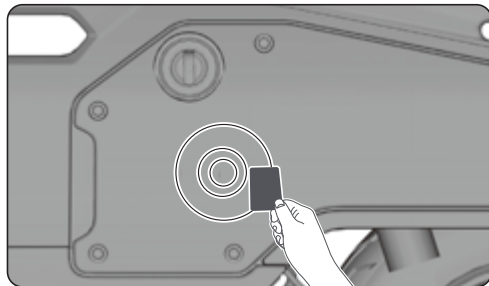
イグニッションスイッチのロック解除

メカニカルモード：

メカニカルキーを差し込み、パワースイッチをONの位置にするとロックが解除されます。

カードキーモード：

- 1 スマートカードキーを持って車両に近づきます。
 - 2 イグニッションスイッチを押して、7秒以内にON位置に回すとロックが解除されます。
- カードキーシステムが作動しない場合、53ページを参照。



| イグニッションスイッチのロック

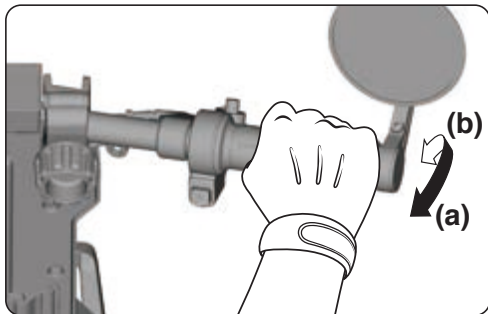
- 1 車両を安定した路面に駐車してください。
- 2 イグニッションスイッチをOFFの位置にします。

注意

車両から離れる時はイグニッションスイッチを、OFFの位置にしてください。ハンドルロックは、イグニッションスイッチがOFFにあり、ランプが点灯していないと動作できません。この状態でロックさせるには、電源を入れて直してください。また、ランプが消える前は、持ち主以外が動作せることが可能です。車両から離れる際は、必ず消灯を確認してください。

ライディング

始動する前に、ミラーを調整して、ウィンカーで発進の合図を出し、周囲の安全を確認してから発進してください。



- 1 電源を入れ、メインスタンドを収納します。
(電源の起動は30ページを参照)
- 2 右スイッチボックスのスタートスイッチを押すと、メーター内のP表示灯が消灯し、READYインジケーターが点灯します。
 - READYインジケーターが点灯しない場合、モーターが起動しないため走り出すことができません。
- 3 加速と減速
加速：スロットルを手前 (a) に回します。
減速：スロットルを奥 (b) に回します。
- 4 カーブに侵入する前に減速し、カーブ出口では徐々にスロットルを開けて車体を安定させます。
必要に応じてウィンカーを出してください。

ブレーキ（制動）

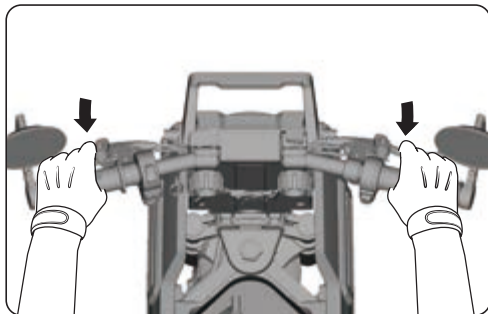
スロットルを戻し、左右のブレーキレバーを丁寧に引きます。
ブレーキを動作させると後部のブレーキランプが点灯します。

注意

カーブを曲がる、停止するとき、減速する必要があります。必要に応じてウィンカーを出し、周囲の交通状況、接近する他の車両をよく確認し、ハンドルをきちんと保持しながら、ブレーキをかけ、徐々に減速します。

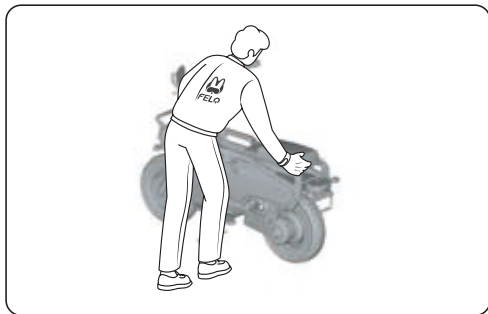
警告

- 過度な力でのブレーキや急ブレーキは、スリップや転倒の恐れがあるので、特に車体を傾けているときは注意すること。
- 濡れた路面でのブレーキは滑りやすく危険なため、速度を落として慎重に運転してください。
- 長く急な下り坂で、ブレーキを繰り返すと過熱してブレーキ性能を低下させる場合があります。安全のため、ブレーキを断続的に使用して減速してください。



駐車

安定した平坦な路面に駐車し、メインスタンドを掛けて、ハンドルをロックしてください。傾斜した路面や不安定な路面に駐車する場合は、車体が動いたり転倒しないように注意してください。



- 1 パワースイッチをOFFの位置にします。
- 2 メインスタンドを降ろす。
- 3 ゆっくりと車体を支えます。

注意

車両から離れる場合は、電源スイッチがOFFの位置にしてください。電源ランプが消灯するまで、持ち主以外が持ち出さないように、車両から離れないでください。

バッテリーの充電

この車両は、動力用にリチウムイオンバッテリーを使用し、フレーム前方下部に搭載されます。（12ページ参照）

⚠ 警告

パワーバッテリーを、分解・改造しないでください。

🔪 注意

- バッテリーは、出荷状態で充電されていないため、初めて使用する前に、販売店に充電を依頼してください。
- この車両は、標高2000m以下の環境で安全に使用してください。

基本情報

パワーバッテリーの特徴。

- バッテリーは充放電を繰り返すと電池容量が徐々に減少します。バッテリー容量が少なくなると、目盛りが満充電を表示していても、走行できる距離が徐々に短くなっていきます。
- 走行条件や使用年数により、放電性能は徐々に低下します。
- 高温もしくは低温の状況下では走行距離が減少します。
- 車体の温度が40℃を超えると正常に充電出来なくなるので、車体の温度が下がってから充電してください。

🔪 注意

- バッテリーが消耗すると盗難防止アラームが作動しなくなります。盗難リスクが高くなりますので、適時に充電してください。
- バッテリーは自己放電するため、車両を長期間使用しないと充電量が減少します。
- 長期間保管する際は、3ヶ月毎に充電を行い、充電率を40%~60%に維持してください。
- 長期保管により始動できなくなった場合は、30分以上充電してから再度始動してください。
- バッテリー寿命を延ばすため、完全放電は避けてください。

下記規則を遵守してください。

- バッテリーは車両に搭載された物のみ使用し、他のメーカーや他モデルのバッテリーを流用しないこと。
- バッテリーを水分や飲料、酸性性液体などに接触させないこと。
- バッテリーを熱源、裸火、引火性・爆発性ガス（液体）などの近くに置かないこと。
- バッテリーに過度の物理的衝撃を与えないこと。
- バッテリーに過度の物理的衝撃を与えないこと。
- バッテリーの過熱、発煙、異臭などの異常に気づいた場合は、直ちに使用を中止し、車体から離れ、販売店にご相談ください。

警告

- バッテリーを正しく取り扱わないと、感電や火災を発生し、死亡事故または重傷につながる恐れがあります。
- 廃棄するバッテリーを分解しないこと。専門業者に依頼すること。
- 下記に該当した場合、バッテリーの保証が適用されません：
 1. 3ヶ月以上、補充電なしに放置した場合。（36ページ参照）
 2. 転倒や事故、浸水、火災、改造等によって、バッテリーが損傷した場合。
 3. バッテリー残量10%以下で、7日以上放置した過放電の場合。
 4. 保証期限が満了している場合。
 5. バッテリー容量が、最大容量の70%を下回った場合。

充電方法



車体側の電源プラグを電源に接続することで充電されます。

充電できる環境

バッテリーの充電は下記の条件下で行ってください。

- 車両が安定して駐車できる平坦な路面。
- 周辺温度が0℃~40℃の範囲。
- 風通しがよく、湿気の少ない場所。
- 法規制等で充電が認められた場所。

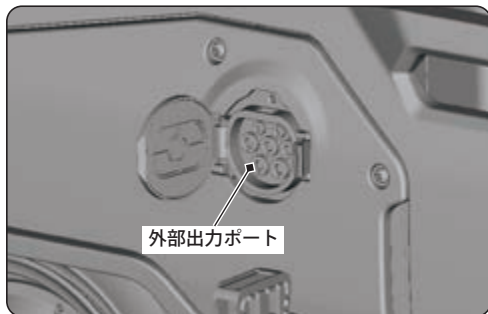
充電時間

充電ゼロのバッテリーを完全に充電するには、約2-3時間かかります。

周辺温度によっては、充電時間は長くなる場合があります。

バッテリー耐用年数への影響を避けるため、充電時間は12時間を超えて行わないでください。

外部出力機能



本車両は外部への放電機能を備えており、外部出力ポートに付属のアダプターを挿すことで、AC 100V ポータブル電源として他の電気機器に電力を供給することができます。

外部出力機能の使用方法：

1 使用前の点検

ポート内の接続ソケットに傷、錆、亀裂などの異常がないか確認してください。接続口表面に傷、錆び、破損がある場合は使用しないでください。また、ポートに接続するアダプター内のプラグが汚れている場合、電源を切ってから乾いた清潔な布でプラグを拭いてください。

2 外部出力の開始

ポートのカバーを開いて、外部出力ポートにアダプターを「カチッ」と音がするまで差し込んでください。アダプターのインジケータが点灯（赤色）して使用できる状態であることを示します。

3 外部出力の停止

アダプターを引き抜き、ポートのカバーを閉じてください。

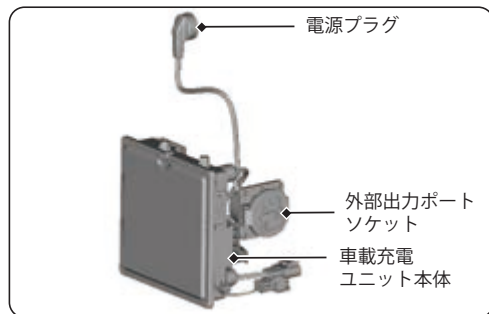
4 放電について

バッテリーを完全に放電させると、性能が劣化したり、充電ができなくなる場合がありますので、給電後は適正なタイミングでバッテリーを充電してください。上記のような問題が発生した場合は、販売店にご相談の上、修理を依頼してください。

⚠ 警告

- 外部出力ポートの保護カバーが破れていたり、ポートが外れたり破損している状態で使用しないでください。
- 使用中は子供が触れたり、近寄らないように注意してください。
- 異常放電している場合は、直ちに使用を停止してください。
- 濡れた手でアダプター内のプラグに触らないでください。
- アダプターの放電プラグピンや出力ポート内の接続口内ジャックに直接触れないでください。
- 接続する機器のケーブルやプラグが損傷している場合は使用しないでください。
- 医療機器やデータサーバなどには使用しないでください。
- 雨天、直射日光、可燃性および爆発性の場所、または屋内の密閉された環境では使用しないでください。
- バッテリーや充電ユニットの保護のため、1400Wを超える電気機器を接続しないでください。

| 充電ユニットについて



充電ユニットの使用法

充電器を使用する際は、下記を遵守してください。:

- 充電ユニットは本車両専用のため、アダプター類含め他の車両には使用しないでください。
- DC (直流) 出力は+/-で表示されています。使用はこの出力範囲内であることを確認してください。
- 充電ユニット本体や電源プラグ、アダプターなどが水に浸かった場合は、使用を中止してください。
- 充電ユニットを火や火花、可燃性ガスの周辺に近づけないでください。
- 充電中は熱を発生しますので、十分に換気し、可燃物の周辺では使用しないでください。
- 充電器の出力電圧は 42V を超えますので、安全に注意して、分解したりしないでください。
- 充電中は冷却ファンの作動音が発生しますが、異常ではありません。
- 充電ユニットのプラグ、コネクタ、ケーブルに傷や変形、異常がある場合はそのまま使用せず、販売店に相談してください。
- 車体カバーをしたまま充電しないでください。また、充電中は換気をよくしてください。
- 雷雨の恐れがある場所では、充電をしないでください。
- 充電器を使用するコンセントは独立させ、他の電化製品を同時に接続しないでください。

- 充電器のプラグを抜く時に、ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電完了後、さらに追加して充電しないでください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。インジケータランプに異常がある場合、充電器が過熱している場合は、直ちに充電を中止し、販売店に点検を依頼してください。

警告

万一、車両やバッテリーから火災が発生した場合、以下の手順に従ってください。:

- バッテリーから煙が発生した場合、すぐに車両から離れ、消防署に連絡をして消火活動を行ってください。
- 消火には粉末消火器または電子消火器が使用できます。消火できない場合は消防署に連絡してください。
- 消火後、バッテリーは自分で廃棄せず、販売店に相談ください。
- 発火場所によっては、車両電源が自動で遮断されない場合があるため、消火後は必ずブレーカースイッチを切ってください。

メンテナンスの重要性

車両を適切にメンテナンスすることは、安全面だけでなく、その他の財産を保護するため、また最適なパフォーマンスを発揮し、故障や事故を防ぐためにも極めて重要です。

警告

乗車前に指定されたメンテナンスを怠ったり、故障箇所を修理しないと、重大または死亡事故につながる恐れがあります。
本マニュアルに記載されている点検項目、およびスケジュールに従ってメンテナンスを実施してください。

メンテナンススケジュール

		9,000 km毎					
		7,000 km毎					
		5,000 km毎					
		3,000 km毎					
		1,000 km走行後					
項目		乗車前点検					
▲	フロントブレーキディスクの点検		○	●	●	●	●
▲	フロントブレーキパッドの点検	I	○	●	●	●	●
▲	リアブレーキの点検	I	○	●	●	●	●
▲	ブレーキホース、ラインの点検（損傷の有無）		○	●	●	●	●
▲	ステアリングヘッドの点検（クリアランス）		○	●	●	●	●
▲	ステアリングコラムの点検（注油）		○	●	●	●	●
▲	前後タイヤの点検（損耗、傷）	I	○	●	●	●	●
▲	前後タイヤ空気圧の点検	I	○	●	●	●	●
▲	前後サスペンションの点検（オイル漏れ）	I	○	●	●	●	●
▲	灯火類の点検（動作）	I	○	●	●	●	●
▲	メインスタンドの点検（ボルトの緩み）		○	●	●	●	●
▲	チェーンの点検（必要に応じて交換）	I		●	●	●	●
▲	ホイールベアリングの点検（緩み、損傷）		○	●	●	●	●
▲	車両の各部品やケーブル類の点検	I	○	●	●	●	●
	フレームの点検				●		●
	スイングアームの点検				●		●

		9,000 km毎					
		7,000 km毎					
		5,000 km毎					
		3,000 km毎					
		1,000 km走行後					
項目		乗車前点検					
	ボルトやナットの点検（緩み）		○	●	●	●	●
	ゴム類の点検（劣化、損傷）		○	●	●	●	●
▲	スイングアームベアリングの点検（動作）		○	●	●	●	●
	可動部品への注油と点検（潤滑性）		○	●	●	●	●
▲	チェーンスプロケットの点検（損傷）		○	●	●	●	●
▲	ワイヤーハーネスの点検（損傷）		○	●	●	●	●

▲：必須点検項目

○：点検時期指定項目

●：定期点検項目

I：乗車前必須点検（必要に応じて清掃、注油、調整、交換）

注：点検および修理は販売店に依頼してください。

部品のメンテナンス

部品の交換

安全性、信頼性を確保するため、純正部品を使用してください。部品交換が必要な場合、販売店に相談してください。

警告

純正品以外の部品を取り付けると安全性が低下し、事故や大げな場合によっては死亡事故につながる恐れがあります。専用設計された純正部品を使用してください。

ホイールハブモーター及びコントローラー

車両コントローラーは、最も重要な部品およびコンポーネントの1つであり、ホイールハブモーターの始動と動作を制御するために使用される中核制御デバイスです。

以下のガイドラインに従ってください。

- モーターを改造しないこと。発火や事故のおそれがあります。
- 後輪アクスル部（中心部）を超える水位の中で走行しないこと。
- ホイールハブモーターが確実に固定されているか点検してください。緩んでいる場合は、販売店にご相談ください。
- ハブモーターのリード線に損傷がないか、モーター回転中に異音がないかを確認してください。異常がある場合は、販売店にご相談ください。

注意

雨天時にカバーなしで長時間駐車した場合は、運転する前にコントローラーやモーターに水が入っていないか確認する必要があります。コントローラーやモーターに水が浸入した場合は、完全に乾くまで走行しないでください。

タイヤ空気圧の点検

少なくとも月に一度はタイヤの空気圧を点検してください。

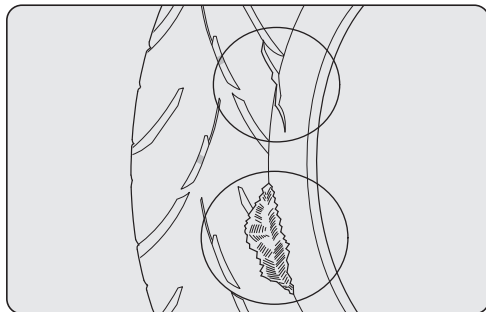
最大タイヤ空気圧（測定は冷間時に行うこと。）：

フロント:	250 kPa
リア	: 250 kPa

警告

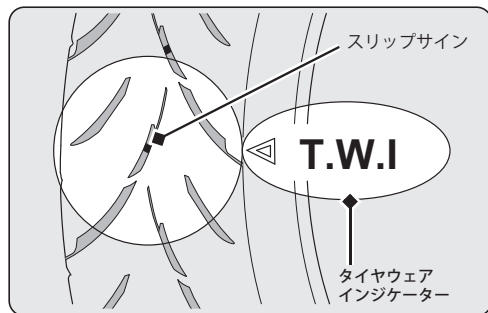
適正な空気圧でない状態で運転すると、車両が制御できず、重大な事故を引き起こす恐れがあります。

タイヤの損傷の点検



タイヤに切り傷、ひび割れ、タイヤコードなど繊維の露出がないか、サイドウォールやトレッドに釘など異物がないか確認してください。サイドウォールに異常な膨らみがないかなどを確認してください。

タイヤ溝の深さの点検



ウェアインジケーターを確認し、スリップサインが現れていたら、
磨耗限度なので新品タイヤに交換してください。

使用限度残り溝：2 mm

⚠ 警告

著しく摩耗したタイヤで走行すると、走行性能が低下し、事故などの原因となる恐れがあります。

以下のガイドラインに従ってください。

- 純正タイヤ、もしくはサイズ、構造、速度記号、負荷能力が同じ製品を使用してください。
- チューブレスタイヤを使用してください。チューブを使用すると過熱によってチューブが破裂する恐れがあります。
- この車両は、チューブレスタイヤ専用リムが設計されています。
- 許容を超えて積載しないこと。過積載は事故の原因となる恐れがあります。
- タイヤ、ホイールやブレーキ関連部品の交換は、販売店に相談してください。

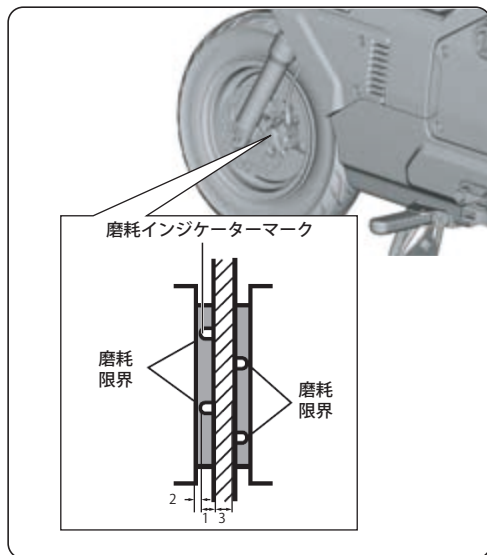
警告

適合外のタイヤを装着すると、ハンドリングや安定性に影響を与え、重大な傷害や死亡事故につながる恐れがあります。本マニュアルで指定されたサイズ、形式のタイヤを使用してください。

指定タイヤサイズ、形式

- フロントタイヤ：
 - タイヤサイズ：3.00-8-4PR(H-981)38J
 - タイヤの種類：チューブレス
 - 最大荷重：132 kg
 - タイヤ空気圧（冷間）：250kPa
 - 最高速度：100 km/h
 - 適用リム幅：MT2.50*8
- リアタイヤ：
 - タイヤサイズ：3.50-8-4PR(H-981)46J
 - タイヤの種類：チューブレス
 - 最大荷重：170 kg
 - タイヤ空気圧（冷間）：250kPa
 - 最高速度：100 km/h

フロントブレーキパッドとディスクの点検



前輪ブレーキパッドの磨耗状態を点検してください。パッドがインジケーターマークが見えないところまで磨耗していたら交換が必要です。

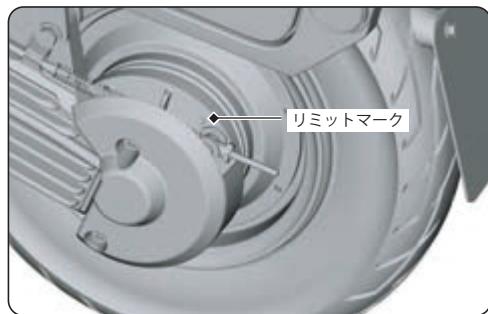
前輪ブレーキディスクが磨耗していないか確認してください。ディスクの厚みが使用限界に達した場合、ブレーキディスクの交換が必要です。

- 1 パッドの使用限度：2mm
- 2 パッドの磨耗限界：0.5mm
- 3 ディスクの使用限界：1.2mm

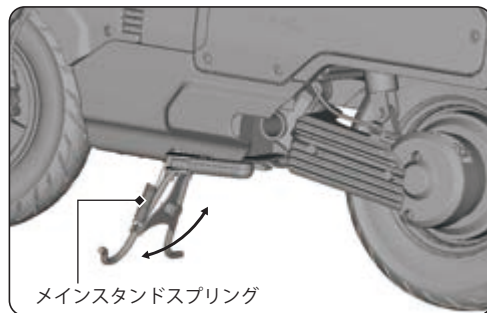
メンテナンス

リアドラムブレーキの点検

リアブレーキシューの摩耗はリミットマークで判断できます。ブレーキを掛けると、矢印がリミットマークの方向に移動します。この2つが一致する場合は、ブレーキシューが著しく摩耗していることを示し、交換する必要があります。必要に応じて、販売店にブレーキシューの交換を依頼してください。



メインスタンド



点検

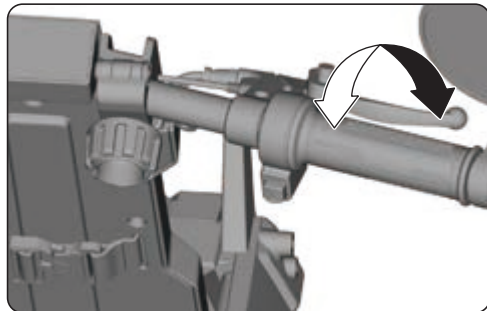
- メインスタンドがスムーズに動作するか確認してください。硬かったりする場合は、ピボット部を清掃し、グリスを塗ってください。
- スプリングに損傷や弾力性の低下がないか確認してください。
- 車両に座り、メインスタンドを格納します。

| スロットル (スピードコントロール)

点検

パワースイッチ OFF の位置で、スロットルを全開まで回し、スムーズに回るかを確認してください。

スロットルがスムーズに動作せず、自動で全閉まで戻らない場合は、販売店に連絡し、点検・調整・修理を行ってください。



車両が走行できない

パワースイッチをONの位置にしても、メーターに何も表示されない場合

下記の項目を確認してください：

- バッテリーが充電されているか確認してください。長期間充電していなかったため始動できない場合は、充電器を接続し、30～60分程度補充充電してから、再度始動を試みてください。
- バッテリーが異常に高温になっていないか確認してください。長時間の急な登坂や、全開で長時間走行すると、バッテリー温度上昇に対するセンサーが機能し、始動させない場合があります。電源スイッチOFFの位置にし、バッテリー温度が下がるまで待つて、再始動を試みてください。
- メインスタンドが格納されているか確認してください。(35ページ参照)
- スロットルが全閉になっているか確認してください。
- ブレーキレバーが解除されているか確認してください。

問題が解決しない場合は、販売店に連絡し、修理を依頼してください。

バッテリーが充電できない

下記の項目を確認してください：

- 非常に高温な場所、直射日光の下で充電しようとしていませんか？
- 充電は推奨された条件で行ってください。(38ページ参照)
- 走行後に、すぐに充電していませんか？
- 非常に低温な場所で充電しようとしていませんか？
- プラグ類はしっかり挿入されていますか？
- 外部電源に異常ありませんか？必要な電力が供給されていますか？
- 充電器のケーブルやプラグに損傷はありませんか？

問題が解決しない場合は、販売店に連絡し、修理を依頼してください。

スマートカードキーが作動しない

スマートカードキーが正常に作動しない場合

下記の項目を確認してください：

- カードが動作範囲内にあるか確認してください。(21ページ参照)
- カードが曲がっていたり、破損がないか確認してください。
- 通信障害が発生していないか確認してください。
スマートカードキーシステムは低周波電波を使用します。
以下の場合、システムが正常に動作しない場合があります。
 - 近くに強い電波やノイズを発生する施設（テレビ塔、発電所、放送局、空港など）がある場合
 - カードをノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信デバイスと一緒に持ち運んでいる場合
 - カードが金属に触れたり、金属製カバーなどで覆われていた場合
- カードが破損していないか確認してください。破損したカードを使用すると、システムが起動できなくなります。カードが破損している場合は、販売店にご相談ください。
- バッテリーと接続ケーブルの状態を確認してください。バッテリーの電圧が低下している場合は、販売店にご相談ください。

上記の理由以外でシステムが使用できない場合は、販売店に連絡してください。

タイヤのパンク

パンク修理やホイールの脱着は、特殊な工具や専門的な技術が必要です。

作業の依頼は、販売店にご相談ください。

警告

補修したタイヤで長時間走行を続けることは、非常に危険です。補修したタイヤで走行する場合は、時速 15km/h 以下でゆっくりと走り、なるべく早く新品タイヤに交換してください。

灯火類の故障

車両に搭載される灯火類はすべてLEDを使用しています。灯火類が点灯しないなどの異常がある場合は、販売店に相談してください。

| ウィンカーの故障

ウィンカーが故障した場合、故障した方向と同じ側（前部または後部）のウィンカーが激しく点滅します。同時にメーター内の方向指示器表示灯も激しく点滅します。

車両のお手入れ

定期的に洗車と磨きを行うことで、車両が長持ちさせることができます。車体がきれいであれば、異常を発見しやすくなります。

潮風や海水、凍結防止剤などの影響を受ける環境下では、錆や腐食が促進されますので注意してください。

上記のような環境で走行した場合、走行後は速やかに洗車してください。

- 洗車
モーターやブレーキなど高温になる部品が冷えるのを待ってから、洗車を始めてください。
- 1 車両全体を水でよくすすぎ、泥やホコリなどを落としてください。
- 2 必要に応じて、中性洗剤を含ませたスポンジまたは柔らかいタオルを使用して汚れを落としてください。
- ヘッドライトレンズ、ボディパネル、その他のプラスチック部品を掃除する際は、傷がつかないように注意してください。電気部品には水が入らないようにしてください
- 3 車両全体を十分な水でよく洗い、清潔な柔らかい布で拭き上げてください。
- 4 潤滑が必要な可動部分に注油してください。
- ブレーキやタイヤにオイルが付着しないように注意してください。オイルが付着するとブレーキディスクやブレーキパッドは制動性能を著しく低下させ、事故につながる恐れがあります。

- 5 劣防止のためプラスチック外装部品にワックスを塗布してください。
- 過度な洗浄力や化学溶剤を含むケミカル製品は使用を避けてください。金属部、塗装面、プラスチック部の表面コーティングを侵食する恐れがあります。
- タイヤやブレーキにワックスを塗らないでください。
- つや消しの塗装面には、ワックスを使用しないでください。
- 洗車時の注意事項
洗車の際は次のガイドラインに従ってください。：
 - 高圧洗浄機は使用しないこと：
高圧洗浄機は、可動部品や電気部品に損傷させる恐れがあります。
 - ブレーキを乾かすこと：
水が付着するとブレーキ性能が低下する恐れがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを断続的に使用して乾かしてください。
 - バッテリーやバッテリーボックスを、水や洗剤で洗わないでください。始動不良や故障の原因となります。
 - シート下を直接水で洗い流さないこと：
電気部品に水が入ると、故障の原因となることがあります。

- ヘッドライト付近の部品を直接水で洗い流さないこと：
洗車後や雨天走行時にヘッドライトのインナーカバーが一時的に曇ることがあります。これはヘッドライトの機能には影響しません。もしヘッドライト内に大量の水が溜まっている場合は、販売店に相談してください。
- つや消し塗装面には、ワックスや研磨剤を使用しないでください。つや消し塗装面には、柔らかい布やスポンジを使用し、多量の水と中性洗剤で洗浄してください。仕上げは、清潔な柔らかい布で拭き上げてください。
- アルミ製部品について
アルミニウムは泥、汚れ、塩分と接触すると腐食します。アルミニウム部品を定期的に洗浄し、傷を防ぐために次のガイドラインに従ってください。
 - 硬いブラシ、スチールウール、研磨剤入りクリーナーは使用しないでください。
 - 縁石に乗り上げたり、こすったりしないよう注意してください。
- ボディパネル
傷や損傷を防ぐために、次のガイドラインに従ってください。：
 - 柔らかいスポンジを使い、多量の水で優しく洗います。
 - 希釈した洗剤を使い、多量の水で洗い流して頑固な汚れを取り除きます。
 - ガソリンやブレーキフルードが、メーター、ボディパネル、ヘッドライトに付着しないように注意してください。

車両の保管

車両を屋外で保管する場合は、全体を覆える車体カバーを使用することをおすすめします。

- 長期間使用しない場合の車両の保管について：
 - バッテリーの性能低下を防止するため、涼しい場所に保管してください。
推奨保管温度：0～25℃
 - 長期保管の前に、バッテリーを満充電してください。

バッテリー残量を、最低でも2ヶ月に一度は確認してください。

注意

バッテリー残量計の表示が、バー1つだけの状態で長期保管しないでください。バッテリーが正常に動作しなくなる恐れがあります。

- 車両を丁寧に洗車し、塗装面にワックスを塗布してください。
(つや消し塗装を除く)
- ジャッキなどを使用して、車両を水平にして、前後タイヤを浮かせた状態で保管してください。
- 車体カバーをかけて保管している場合、雨が降った後は、車体カバーを取り外し車両を乾燥させてください。

車両の輸送

バイクを輸送する際は、専用トレーラーやフラットフロアのトラックなどに、昇降用ラダーや固定用ストラップを準備してください。

バイクの前輪がトレーラーやトラックの進行方向にまっすぐ向くようにしてください。固定には、フレームやフロントフォーク、リアスイングアームなどの強度の高い部品にストラップを締結し、車両を固定してください。

注意

車両の牽引はトランスミッション周辺部品に損傷を与える恐れがあります。

車両を移動させる必要がある場合は、必ず保護手袋を着用してください。輸送中に車輪やブレーキなどに、手を挟まれないように注意してください。

環境保護

車両を所有することは、同時に環境保護に対する責任を果たさなければなりません。

- 環境に適切な洗剤を選択する
洗車する際は、生分解性の洗剤を使用してください。オゾン層を破壊するクロロフルオロカーボン(CFCs)を含むスプレーは使用しないでください。
 - 廃棄について
交換後、廃棄する油脂類などは、地域の規則に従って廃棄してください。使用済みのギヤオイルを、排水溝や地面に廃棄しないでください。使用済みのモーターオイル、ガソリン、冷却液、洗浄溶剤には有毒物質が含まれており、人体に害を与えたり、環境を汚染したりする恐れがあります。
- バッテリーの廃棄
車両が修理不能になった場合など、バッテリーを廃棄する必要がある場合は、販売店に相談してください。

主要諸元

全長*全幅*全高 (mm)	1,190*565*895
ホイールベース (mm)	800
車両重量 (kg)	50 (ハンドルミラー2個含む)
最大積載荷重 (kg)	100
最大総重量 (kg)	155
乗車定員	1名
最小旋回半径 (m)	1.2
シート高 (mm)	610
最低地上高 (mm)	80
キャスト角 (°)	24.5
伝達方式	チェーンドライブ
ブレーキ型式	前:ディスク/後:ドラム
フロントタイヤサイズ	3.00-8-4PR(H-981)38J
リアタイヤサイズ	3.50-8-4PR(H-981)46J

タイヤ空気圧 (kPa)	前 (最大)	250
	後 (最大)	250
フロントショックアブソーバー	正立式	
リアショックアブソーバー	ガンタイプ	
モーター形式	ホイールハブモーター	
モーター定格出力 (W)	600	
モーター定格速度 (r/min)	350	
モーター定格電圧 (V)	48	
最高速 (km/h)	45	
最大航続距離*(km)	45	
消費電力 (kw-h/100km)	2.13	
最大登坂角 (°)	15	

*航続距離はWMTCモード値です。実際の航続距離は、風、路面、荷重、加減速操作などの影響を受け変化しますので、あくまでも参考値です。

*本マニュアルにある商品画像、機能、性能等は参考値です。実際の製品を優先してください。

バッテリー

バッテリーの種類	リチウムイオン電池
セル形式	EVE-ICR18650/26V
セル容量	2,550mAh
接続/制御形式	13S8P
バッテリー重量	11kg
バッテリー電圧	48V
バッテリー容量	20Ah
バッテリー搭載箇所	車体内
搭載方式	着脱可

コントローラー

不足電圧保護値 (UVP)	38±1 V
過電流保護値 (OVP)	30±1 A

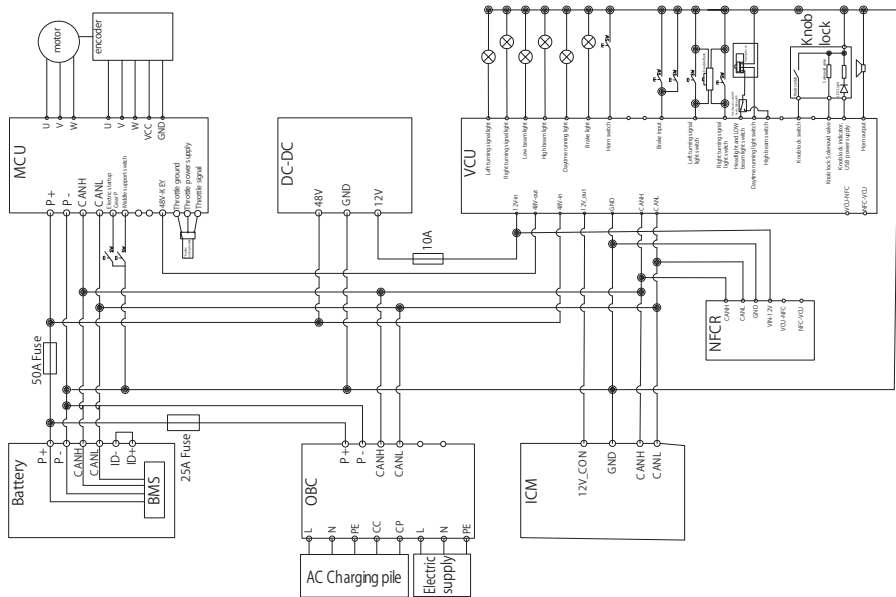
電装部品

ヘッドライト	LED
フロントウィンカー	LED
リアウィンカー	LED
テールランプ	LED
メーター	LCD
サイドリフレクター	有
リアリフレクター	有

ヒューズ

メインヒューズ	50A x 1
サブヒューズ	25A x 1 10A x 1

電氣回路圖



ア		オ	
アクセサリーと改造	9	オーナーの責任	6
安全運転のために.....	7	カ	
安全のための注意事項.....	7	外部出力機能	39
イ		概要	3
イグニッションスイッチ	17	環境保護	58
イグニッションスイッチのロック	32	コ	
イグニッションスイッチのロック解除	31	コントローラー	45
ウ			
ウインカー(方向指示器)スイッチ	15		
運転時の環境条件	6		

シ

始動方法	30	乗車前の点検	7
車台番号	4	充電方法	38
車両が走行できない	52	充電ユニットについて	40
車両のお手入れ	55	充電ユニットの使用方法	41
車体の折りたたみ方法	26	主要諸元	59
車両の保管	57	主要電気部品	12
車両の輸送	58	主要部品	10
乗車時の服装	6		
乗車前の準備	23		

ス

スイッチ.....	15	16
スタートスイッチ.....	16	
スマートカードキーが作動しない.....	53	
スマートカードキーシステム.....	20	
スマートカードキーの使い方.....	18	
スロットル(スピードコントロール).....	51	

セ

製品ラベル.....	4	
積載について.....	9	

タ

タイヤ空気圧の点検.....	46	
タイヤ損傷の点検.....	46	
タイヤのパンク.....	53	
タイヤ溝の深さの点検.....	47	

チ

駐車.....	35	
---------	----	--

テ

電気回路図.....	61	
------------	----	--

ト

灯火類の故障.....	54	
盗難防止アラーム.....	22	

ハ

はじめに	ii
バッテリー	8
バッテリー外部出力ポート	19
バッテリーが充電できない	52
バッテリーの充電	36
バッテリーの取り付け	24
ヒ	
表示機能の点検.....	13
表示灯(インジケーター)	14

フ

FELQ MOTO 専用アプリ	5
部品の交換	45
ブレーキ	8
ブレーキ(制動)	34
フロントブレーキパッドとディスクの点検 ...	49
ホ	
ホイールハブモーター	45
ホーンボタン	15

メ

メインスタンド.....	50
メカニカルキーの使い方	18
メーター	13
メンテナンススケジュール	43
メンテナンスの重要性	42

ヨ

予期せぬ事故の対処	8
-----------------	---

ラ

ライディング.....	33
-------------	----

リ

リアドラムブレーキの点検	50
--------------------	----



M 壹

Electric Motorcycle

FELO TECHNOLOGY LIMITED



ROOM 8, 11/F, WANG FAI INDUSTRIAL BUILDING,
29 LUKHOP STREET, SAN PO KONG, KL



info@felo-ev.com



+86-21-6785-9325



Official Website